DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
響奏囚姫アリア
壊れた世界に響く独奏曲

前作のあらすじ

突如異界から現れ、世界を支配しようと画策する侵略者「ミュート」。
彼女は魔人と呼ばれ、その魔人と戦う「閃姫」と呼ばれる二人の少女がいた。

一人は「閃姫アリア」ー日高 寧音(ひだか ねおん)。
もう一人は「閃姫マーチ」ー吉川 奏衣(よしかわ かなえ)。

「みんなとお友達になりたい」。そう考えている奏衣は
敵対するミュートとも手を取りあえる道がないか模索していたが、
その考えに気を取られミュートの放った攻撃を受けてしまう。

その日を境に一変する日常。
男性器を生やされ、男女関わらず大切に想っていた学校の生徒たちとまぐわう日々。

そしてある時、ミュートから閃姫の力の真実を聞かされる。
閃姫と魔人の力は同質のもの。ミュートから与えられた一撃により奏衣の力は
「欲望」により引き出されるよう変質し、心身の異変もそれが原因だった。

そして気付かされる。自身の欲望を。
他人に嫌われることを恐れ、「誰とでも繋がれる体」と
「繋がった相手を繋ぎとめる力」を求めたことを。
その欲望に抗えないことを悟った奏衣は閃姫として戦うことを諦め、
ミュートや自身の欲望を受け入れる。

一方、ミュートに似た気配を感じ学校を訪れた寧音。
そこには、永遠に離れることのない「お供達(トモダチ)」を連れ、
魔人と化した奏衣がいたー。

良い眺めだ

私はこの社長室から見る景色が好きでね まるでこの街すべてが自分の箱庭のように思える

…日高の人間は代々『使う』ことに長けていた

弱者を利用し支配し自らの力に変え様々な分野の有力者となった

私もそうしてこの会社を発展させ今やこの国の財界に強い影響力を持つ一大企業だ

我々は『鶴』なのだよ

日よりも高く舞い上がり眼下に群がる雀共の囀(さえずり)りをそのひと声で掻き消し従わせる高貴で特別な存在だ

…お前もまたそうでなくてはいけないのだ

—わかるか

寧音(ねおん)よ

…随分と傲慢な考えですね

私も貴方も鶴などではありません

貴方が私欲の為に踏みにじり支配してきた雀たちと同じです

私は貴方の思想まで継ぐつもりはありません

…ふん相変わらず稚拙な綺麗事を並べおって

だがいずれお前も理解する時が来るだろう

カッ…

カッ…

どれだけ否定しようともお前にも私と同じ血が流れているということを

そしてその血には決して抗えぬということをな

キィ…

ニヤ…

バタン…

—そんなこと

もう解っているのですよお父様

—だけど

それでも私は—

キュ…

—私は
『支配(あなた)』に抗うのです

ぱん…
—ん…
あれ…
夢…？
そうだ…
私は学校に行って
秦衣と会って…
ぱん。
ぱち…
ぱん♡
ぱん♡
ぱん♡
…ッ!!
ビクッ
イグウウッ!!
ビクッ
ビクッ
—あ
おはよ
寧音ちゃん♪
ぱゅん♡
気分はどう？
…最悪です
いっそ
この光景も夢であって
ほしいと思うほどに
でも
そうではないのですね
ギチ…

—奏衣(かなえ)
あぁッ♡
私の新しい姿びっくりした？
あの時の寧音ちゃんの顔忘れらんないよ♪
ここは…
ミュートが拠点にしていた異空間の中
学校内に入口(ゲート)を作って動揺して隙だらけの寧音ちゃんを引きずりこんだの
ズズ…
スルッ
…こんなことをして心は痛まないのですか？
誰にでも優しくていつも他人のことを想っていた貴女が…
違うよ
え…
私はただ人に嫌われたくなかっただけ
最初から自分のことしか考えてなかったんだよ
人を嫌うのも辛い人から嫌われるのも痛い
だから無理してでもいつも笑顔作って皆から好かれようとしてた
でも今は違う
憎まれても恨まれても蔑まれても
この力があれば最後はみーんな私のことが大好きな『お供達(トモダチ)』になってくれるんだ
はぁ…
どろ…
ずリ…
ずリ…

だから

全ッ然痛くない

……
本当に…変わってしまったのですね
それは未熟なばかりに貴女を戦いに巻き込んでしまった
私の責任です
貴女の身に何があったのかは判りません
でも本来の貴女はこんなことをする子ではなかったはず
もしも貴女を変えてしまった原因がこの戦いや閃姫の力にあるのならば
本当に…ごめんなさい
奏衣

—ムカつく
ばん
私たちの力の源は『欲望』…
その力を行使できるってことは寧音ちゃんも私みたいな欲望を抱えてるってことなんだよ
それなのに本心を隠していい子ぶってバカみたい
前の私を見てるみたいで反吐が出るよ

……まぁいいや
そんなに私に対して負い目を感じるんならさ
ちょっと付き合ってよ
寧音ちゃんに教えてあげる
私がこの数日間…どんなことをシていたのかをね

…ったくやってらんねぇ
お前、サークルの女に手ぇ出して退学になったんだってな
べろんべろんに酔ってたしノリでイケると思ったんだよ
それをアイツ…大袈裟に騒ぎやがって
はぁ〜…どっかにヤらせてくれる都合のいいオンナいねぇかなー…
ね〜ぇおにーさん達♪

今ヒマなら私たちと遊ばない？ヤリたいだけだからお金とかもいらないよ♥
えっと…後ろの子も？
うん♪この子未経験だから優しくしてあげてね
マジ？逆ナンかよ！しかもすっげぇカワイイじゃん！
へぇ清純そうな顔してるのにもしかしてこういうのに興味あるとか？
やっべ…俺めっちゃ好みかも…！
へへっ…じゃ、さっそくホテル行こうぜ
やた♪いっぱいキモチよくしてあげるね♥

私はもっと『お供達』を増やしたい
だからニンゲンの姿で夜の街に遊びに行こうと思ってるんだ
せっかくだから寧音ちゃんも一緒に愉しもうよ
もしかしたらそういう経験が寧音ちゃんの欲望を知るきっかけになるかもしれないしね
…私に貴女達の侵略行為を黙って見ていろと？
別に逃げたり抵抗しても構わないよ？
周りのニンゲン達や私の『お供達』になった子たちがどうなってもいいなら…ね

今の奏衣なら躊躇いなく無関係の人間を攻撃しかねない
なら…今は従うしかない
今は耐えて一刻も早く見つけなければ
この状況を打開して奏衣や他の人々を救う方法を…！
ん♡
んちゅ♡
ど～う？気持ちいい？
うおっ…たまんね…！
めちゃくちゃ気持ちいいよ奏衣ちゃん
ぱぁ…♡
ぶるぶる…♡
奏衣…学校でもずっとこんなことを…
最近よそよそしかったのもこれで合点がいく
ずっと近くにいたのに気付いてあげられなかった
あの子が苦しい思いをしている時に私は一体何をしていたの…！
キミもほら！ぼーっとしてないで！
まずは口でしてみてよ見てるだけじゃあの子みたく上手くなれないぞー？
ひっ…！

こんな汚いモノを口で…
でも覚悟を決めないと
バキ
むわっ…
バキ
奏衣を…助けるために！
はむ…
んあっ…
おっ！結構積極的じゃん
なになに？友達のを見て我慢できなくなっちゃったとか？
ぐぽっ
んッ
じゅぽっ
んぐッ
この人…こちらの気も知らないで…！
やべっ…こんな可愛い子が咥えてくれてるってだけで興奮が…
じゅ
ぐっぽっ
ぐぽッ
お…俺もうっ…！
じわ…
射で精るッ!!
んぶッ!?
じゅぽッ
ぶんッ

あははっ おにーさん はやーい♪
ブボッ
ブボッ
ギャハハッ
どんだけ 早漏だよお前！
う…うるせぇっ！ 仕方ねぇだろ!!
これが精液…
ドロ…
私が…男の人を射精させた…
ドクン…
ドクン
くっそ… 出したばっかなのに まだムラムラしやがる
ビキ…
きゃっ!!
ガッ
もう我慢できねぇ…！ そろそろマンコ 使わせてもらうぜ!!
いやっ…！ それだけは…！
ぶるんっ
ぐぐ
そんなこと言って ホントは期待して こんなとこまで きたんだろ？
ガキのくせに 恥かかせやがって… 俺がてめぇの 初めてを―
ああ!!
ビクッ!!

—はい

…え？

止まって…くれた？

どうして…

我慢しなくていいんだよ おにーさん♥

おにーさんは寧音ちゃんのこと気に入ったんでしょ？

だったらめちゃくちゃにしちゃいなよ

その欲望を解放してあげるから

貴方の思うがままに…ね？

ズズ…

ぐッ…!?

あ…アアッ!?

お…おい！急にどうした!?

犯ス……

コノ女…

めチャくちゃ…ニ

待っ…

いやあああッ！

お…ガッ
おが…す…ッ
だめ…！
激しすぎて
息がっ……！
ずちゅッ
パンッ
じゅぷ
ガッ…！
あッ！
パンッ
よくわかんねぇけど
あんな激しいの見てたら
コッチまで滾って
きゃがった…！
奏衣ちゃん！
俺も突っ込んで
いいよな!?
あぁっ♥
もちろんっ♪
私のことも
あんな風に
めちゃくちゃに
犯してよ♥
ばくんっ♥
ア…ッ！
ガッ…！
ぱぁぁっ♥
あぁ♥
だ…
出スッ…!!
オ前の
ナガにッ……!!
ぐぐッ♥
ずりゅゅ♥
いや…！
膣内…
だけはっ…！
なぁ♥
あはッ！
おにーさんも人のこと
言えないねっ♥
私の中に
いっぱい射精してぇ♥
パンッ
ぐちゅ♥
ずちゅ♥
奏衣ちゃん！
俺ももう…！
あん♥
あん♥
パンッ
びくっ♥

びくッ♥
びくッ
あはぁぁんッ♥
ゃぁぁぁッ!!
じゅぷッ♥
どぷッ

はぁ…
はぁ…

それから私は
毎夜奏衣に連れ出され
街の男たちと交わった

ただひたすらに
奏衣と男たちの
言いなりになって
犯され続ける日々

下手に逆らって
奏衣の機嫌を損なえば
周りに危害が及ぶ
可能性がある

それ以外にも…
私にはもうひとつ
懸念していることがあった

—あの時の出来事が頭から離れない

—はい

『閃姫』の力は『願い』の力

しかしその願いの根源は『欲望』であり本質は相対する『魔人』の力と同じ

…欲望に呑まれ魔人に変わってしまった奏衣がそう教えてくれた

なぜあの男が一瞬でも私の言うことを素直に聞いたのか

もしあの出来事が私の力によるものであり

その源が私の『欲望』なのだとしたら…

—認めてはいけない

だって…その欲望の正体はきっと

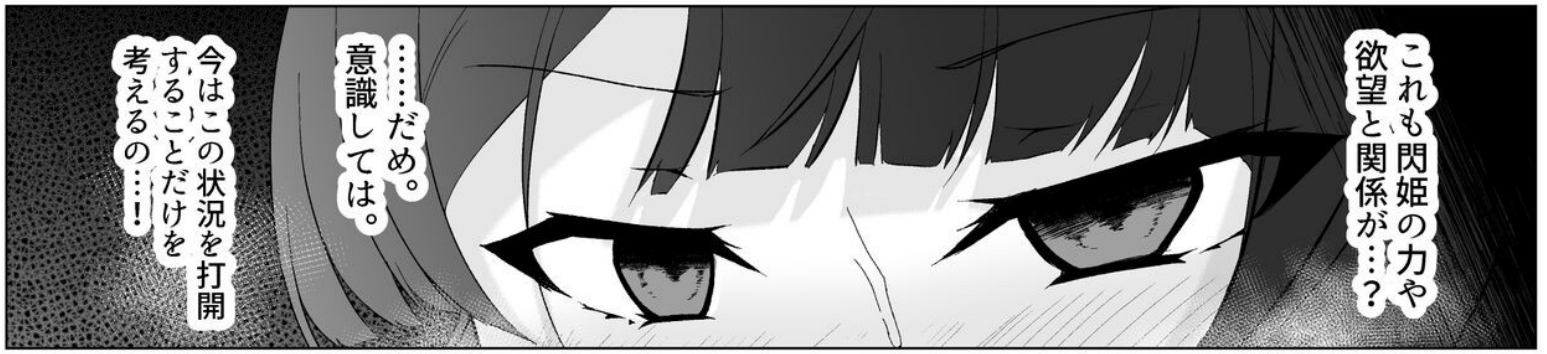
『あの人』と同じ—

—失礼

もしかして日高寧音さん…でしょうか？

良かった…やっぱり貴女でしたか
偶然後姿を見かけてもしやと思ったのですが…ご無事で何よりです
ほ…
何日もご自宅に戻られていないと社長から伺っていたので心配しておりました
—寧音ちゃんの知り合い？
今社長って言ってたけど一体何のこと—
さ
わたくしと一緒にお父様のもとへ戻—
すみません
訳あってまだ帰るわけにはいかないのです
今日私と会ったことはどうかご内密に
…あぁはい
わかり…ました
…大丈夫
自分の欲望さえ認めなければきっと…私は私のままでいられる
…へぇ♪

はぁッ…
はぁ…
ぎゅっ…
ここ数日
強烈な身体の火照りが
収まらない……
キィ…
少しでも気を緩めれば
心まで灼き尽くされて
しまいそう……


これも閃姫の力や
欲望と関係が…？
……だめ。
意識しては。
今はこの状況を打開
することだけを
考えるの…！

…やぁ
少し見ないうちに
随分とおとなしく
なったじゃないか
ギリ…
—ミュートッ…!!
おー怖い怖い
そんなに
睨まないでくれよ
そんなに
ボクのことが
憎いのかい？

当然です…！貴女さえこの世界に来なければ…

貴女がこの世界を支配するなんて野望を持っていなければこんな争いなんて起こらなかった

私も奏衣も…貴女との戦いさえなければ

こんな力なんて必要なかったのに…！

—本当に？

体の疼きはキミの力の性質が変わった証

キミの中に渦巻く欲望をトリガーとして力を行使するようになったんだ

マーチは元々自分の欲望に無自覚だったからね

ボクがアイツの力を捻じ曲げて欲望を解放してやったんだけど

キミはそれを自力でやってのけた

もうキミは理解しているはずだよ

自分自身の欲望の正体をさ

…黙りなさい

否定すればするほど満たされぬ欲望はキミの中で暴れまわり疼きは強くなる

いらないってのは本当に本心かい？

黙って!!

すごいね
変身してもまだ
正気でいられるんだ
沢山の人々を傷つけ
秦衣をあんな風に
変えた貴女を
私は絶対に許さない！
貴女との因縁…
今ここで
終わらせます！
でももう
心は欲望に
呑まれかけてる
自分の本心から
目を背け続けてなんとか
理性を保ってるって感じだね
はぁ…
はぁっ…
そんなキミの為に
特別ゲストを
招いてみたんだ
どんな反応を
してくれるのか
楽しみだよ
ゲスト…？
その声…
寧音…か？

……お

お父…様……？

もーびっくりしちゃったよ

寧音ちゃんがまさか社長令嬢だったなんてさ

寧音ちゃんったら自分のこと全然話してくれないんだもん

どうして…

どうして貴女がそれを…

前に寧音ちゃんを連れて帰ろうとした女の人、社長秘書さんなんだってね

あの人事情とか色々と知ってそうだったからあの後お話してきたの

私の『お供達』にしてあげたらなんでも教えてくれたよ

寧音ちゃんのことも…

お父さんのこととかもね

寧音ちゃんのお父さん随分と強欲な人なんだね

人を人とも思わず権力で支配して自分の欲を満たす独裁者…まるで私たちみたい

そんな人が身近にいるのにそれを隠して自分は悪と戦う正義の戦士を気取ってたなんてなんか笑っちゃうね

ちが…

そんなつもりは…

あの男は
キミにとっての
支配の象徴

キミはボクの野心に
アイツの姿を重ねて
いたんじゃないかな？

キミはアイツを
どうしたい？

ドクッ

あんなヤツ
今のキミなら
どうとでもできる

それだけの力を
持っているのだから

自分の本音に
耳を傾けてみなよ

私の…本音…？

ドクン…

キィィン…

私は…
私がやりたいことは…

ドクン…

寧音！
これはどういうことだ!?

この連中と
お前は何か関係が
あるのか？

お前は
一体何を―

―お父様

ちょっと

こちらへ来て
頂けますか？

ブッ…
なんだ…？
足が…勝手に…！
ぐぐ…
…意識までは奪えませんか
流石上に立つ者は違いますね
けれど所詮は人の身
閃姫の力には逆らえないでしょう
せん…き？
まさかお前が噂の―
ありえん…この私が自分の娘に臆するなど…
しかし雰囲気がまるで別人…
―いや『人』…なのか？
私は…弱き者を護り支配に抗うためにこの力を授かったのだと…そう思っていました
…そう思いたかった
やはり私は貴方の娘…
す…
口では否定しようとも内心では切望していたのです
貴方と同じく弱い人間を
…いえ貴方をも従わせられる
人を超えた絶対的な『力』を

ッ…!!
ドッ
けれど自分が
そんな醜悪な欲を
持った人間だなんて
認めたくなかった
だから私は
否定し続けて
いたのです
貴方のことも
そして
…私自身も
でも…
もうそんな理性も
煩わしいだけ
心の中に巣食っていた
そんな欲望が
溢れて自分でも
抑えられないのです
はー…
はぁ…
この力を使って
他人を思い通りに
してみたい
トロ。
だから…
貴方で
確かめさせて
人を支配する
この力を
それでは
まず―
私が…
『鶴』に成ったことを
おチンポを
勃起させて
ください♥
ドクンッ
な…ッ!?
バカな…
こんな状況で…
しかも娘相手に
勃つはずが…!?
あら…♥
随分とご立派なモノを
持っていたのですね
これは期待
出来そうです
ポロン

それでは失礼して…

よ…よせ！私たちは親子だぞ!?

一体何を考えて―

あはぁッ!!

神は人のたわ

どうですかぁ？実の娘のおマンコの味は♥

他のオンナのより気持ちイイでしょう？

知っているんですよ？貴方が何人もの女性と関係を持っていることくらい

まぁ…もう私も人のことは言えない立場ですが

今まで食べたおチンポの中では一番素敵ですよ♥

ぐうっ……！
いかん…
そろそろ限界がッ……
ぴくっ
—誰が射精しても良いと言いましたか？
私が満足するまで射精することは許しませんよ
キィ
イッ…
アガッ!?
射精が…出来ないッ…!?
まるで…性器に栓でもされたかのように…
ビキキッ
ミチッ。
た…頼むッ……！射精させてくれ!!
プル。
プル。
このままでは…！このままでは気がどうにかなってしまう！
—なんて情けない顔
ハァ…
ハァ…
もはや父としての威厳も支配者としての風格も感じられない
なりふり構わず娘に膣内出しを懇願するほどの浅ましい姿…

—たまらなく興奮します…ッ!!
貴方のそんな顔を見たら私…もっとイジめたくなってしまうではないですか…!
ほらほらっ！もっと耐えて私にその無様な顔を拝ませてください♥
もっと耐えて…
耐えて
耐えてッ！
耐えろッ♪
イ、ガイッ
ガク
ガク…

もうおチンポがはち切れそうなくらいパンパンですねっ♥

はっ♥

はぁっ♥

ぱちゅ

ずぢゅ

貴方の素敵な顔もいっぱい堪能しましたしそろそろ射精させてあげましょうか♥

はぁ♥

はぁっ♥

その溜め込んだ精液を一滴残さず私の膣内(なか)に――

射精(だ)せ♥

びくっ

びくっ

はぁぁぁっ♥♥♥

どぴゅ

ぶぴゅ

ぶぴゅ

ぶぢゅる

ふふっ…たくさん射精しましたね♥
はぁ…♥
奥に叩きつけるような勢いと量…まるで噴火みたい
とっても気持ちよかったです♥
へな…
でもまだ出来ますよね？
私の気が済むまで付きあってもらいますよお父様♥
ビクッ!?
バカなッ…
もう…出し尽くしたはず…!?
ビクッ
ビギッ…
—さこれで再開出来ますね
やめろ…やめてくれ…!!
くわっ
これ以上はもう—
—なにか…仰いましたか？
生憎雀の囀り如きに傾ける耳など持ち合わせていないのですけれど
ニタ…
ぶちぶちぶちッ

…自分の欲望に素直になってすっきりしたかい？

ヒュー…

ヒュー…

—いいえ

まったく呆れたものですね

自分の欲望に従って人としての私と決別したつもりだったのに…

私の中に残っているかすかな理性が未練がましく胸に打ち付けてくるのです

人の心を繋ぎとめるために

後悔と罪悪感の楔を

—だから

殺して

私の『ニンゲン』としての心を殺して貴女達と同じになれるように

欲望に従っても心を痛めることがないように

…わかったよ

ボクの因子を注ぎ込んでキミもマーチと同じように—

私を…ニンゲンという『支配』から解放してください

—待って

ぱぁ。

それ私にやらせてよ
今の私ならできるよね？

だからこれはそのお返し

最後は私の手で―
『寧音（ニンゲン）ちゃん』を終わらせてあげる

私がこうなったきっかけをくれたのは寧音ちゃんだもん

寧音ちゃんがいたから私は閃姫になって

そして『マーチ』（いまのわたし）を始められた

…ありがとう

来て―『マーチ』

ぐぐ…

ぶぶ…

ぶぶ…

ぶぶ…

あぁッ

ぶぶ…

ぶぶ…

ぶぶ…

寧音ちゃんのおマンコっ♥
ヌメヌメのほかほかでとっても気持ちいいよ♪
私もっとても気持ちいいです！
もっと…もっとマーチのおチンポくださいっ！
ぐちゅ♥
すちゅ♥
パン♥
パン♥
パン♥
ぐっ
ぐっ
あッ
あッ
あッ
あッ
おねだりする寧音ちゃん可愛いっ♥
これからは何も我慢する必要なんてないんだよっ
好きなだけ求めて！支配してぇ！
自分の欲望のままに生きていいんだよっ！
欲望のまま…に
—そうだ
こんな力を持っていながらなんで人としての道理に拘る必要がある？
他人なんて自分を押し殺してまで護るもの？
自分に嘘を吐いても苦しいだけ
みんな欲望に抗えず思うまま楽しそうにしているじゃない
お父様も街の男たちもミュートも—

寧音ちゃん！私もう限界っ♥
はっ♥
はぁぁっ
私の因子(せーし)♥いーっぱい注ぎ込んで理性なんて綺麗さっぱり押し流してあげるねっ♥
—この子でさえも
それなら私も—
はぁぁぁん!!
射精してねっ♥
ビッ♥
ドプッ
ビくんっ♥
ビュルッ♥

—心が闇に融けてゆく
ニンゲンへの未練も
さっきまでの心の痛みも…
もう何も感じない
—どうして私は…
今まで欲望に呑まれずに
閃姫であり続けられて
いたんだろう
この力の前には
人の心なんてこんなにも
脆く崩れてゆくものなのに
—あぁ
そうだ
「希望」が
あったからだ

私が抱える醜悪な欲は
いつか誰かを傷つける
だから他人と
親しくなることを避け
一人で戦い続けていた
—そんな私に
あの子は手を
伸ばしてくれた
誰にでも平等に接し
友達になろうとする
あの子が隣に
いてくれたなら
私は自分の欲望を振り払い
変わっていけると思ったんだ

でも
その「希望」も
今はもう—
私も…
行きますね
『そちら』の
世界へ—

これで寧音ちゃん…アリアも仲間だね！
まったく手間かけさせてくれたよ
完全に生まれ変わって今度こそすっきりしたかい？
ドッ。
ギィィ
—ええ
おかげさまで
そりゃ良かった
これからはマーチ共々ボクの望む世界の為に—
ドォォォッ

—調子に乗らないでもらえるかしら？

私は私のためにこの力を振るう

誰の指図も受けるつもりはないわ

ミュフフ…

でもこの世界を支配するという野望は同じ

お互い利害が一致するうちは手を取り合っていきましょう？

産まれたばかりなのに随分と生意気な口をきくんだね

まぁいいや今のキミと事を構えるのは面倒そうだし乗ってやるよ

ただしあくまで目的を達成するためだ

もしボクの邪魔になるようなら二度とそんな口叩けないようにしてやるよ…！

ビキ

ビキッ

—えーっと…

ゴゴゴゴ

なかよく…

……ね？

カはは…

社長室
♪
コン
コン
マーチね？
入って
ちょっと話があって来たんだけど―
ガチャ
…っとお楽しみ中だった？
もしかして
別に…構わないわ
座り心地はどう？
念願の・・・・社長の椅子は
―そうねぇ
まぁ悪くはないわ
でも…

—物足りないわね

こんな会社ひとつ支配するだけじゃ全然満たされない

早いところ例の計画を進めていかないとね

フーッ

フーッ

そのことについてもう少し詳しく聞きたかったんだ

ミュートはもう動いてるんだっけ

彼女にはこれまで通り好き勝手暴れてもらってるわ

各地に魔人への畏怖や憎悪…

そして魔人の力をばら撒くためにね

生き残った者の中には私たちと同じく力に適合するニンゲンもいるでしょう

でもたった一人では私たちにはまず太刀打ちできない

悪に対する憎悪は確かにあるのに無力感や焦燥感に苛まれながら過ごす日々…

そんなときにもし…

共に戦おうと手を差し伸べてくる存在がいたなら

いくら非力なニンゲンとはいえ勝手に徒党を組まれては面倒だもの

だったらその前にこちらから首輪を着けに行けばいい

表向きは人類が魔人に対抗するための組織として

その実態は閃姫の卵たちを脅威になる前に囲い込んで魔人(わたしたち)の活動をより円滑にするための隠れ蓑

それをこの会社を母体に作り上げるの

…で、その後は貴女の出番

貴女の力で彼女達を少しずつ『こちら側』に取り込んで欲しいの

ニンゲンのまま『お供達』にするか魔人に覚醒させるかは貴女に一任するわ

…んふ♥

了解♪

ぶくっ

…へへえへへへっ…♥

また『お供達』が増える……

愉しみだなぁ♥

私は力を使って社員の教育をしたり傀儡にした父を使って組織の立ち上げを進めているけれど…

正直まだまだ時間がかかりそう

武力を持つ組織なんて普通は認められるものじゃないしね

だから…私たちも少し暴れましょうか

よりニンゲンどもが私たちのことを脅威に感じてくれるように

そうだね♥待ってるだけは性にあわないよ

いっぱい暴れていっぱい犯してたっくさん『お供達』を作らないと♥

それじゃ行きましょうかマーチ
うん！アリア！
ぎゅ。。。
この日を境に世界の音が変わった
喜怒哀楽に満ちた人々の営みの音はいつしか欲望と怨嗟に満ちた狂騒へ
やがて誰かが呼び始めた『閃姫』という名前も強大な力の前に消え
その名に込められた一筋の希望すら完全に潰えた時
世界を殲ぼした支配者達をこう呼んだ
—『殲鬼』と

あとがき

始めまして。緒嵜と申します。
この度は、この本をお手に取っていただき誠にありがとうございます。

前作の頒布から1年が経過してしまいましたが、何とか完結と相成りました。
今年中には続編を完成させたいと思っていましたので、達成できて良かったです。

本作では、前作の続き物としてもう一人のヒロインをメインに据えた話を描いてみました。
前作の主人公は「無自覚な支配欲」を一つのテーマとして描いていましたが、
本作の主人公は「自覚している支配欲」をテーマにしています。
その他にも、前作の内容と対比や関連付けさせている箇所があるので、
是非前作「響奏閃姫マーチ」も併せて読んでいただけると幸いです。

前作の執筆終了時点で堕ち後のデザインや大まかな設定、話の大枠についてはある程度決めていたものの、ストーリーとして描きたい流れとエロ漫画として入れるべき描写の板挟みで話をまとめるのにかなり苦心してしまいました。
でも最終的には当初考えていた展開から概ねブレずに完結させることが出来たので良かったと思っています。
前作以上にストーリー部分の比重が大きめになってしまったように思いますが、
そういった部分も是非楽しんでいただけましたら幸いです。

でもやっぱり…もう少しマーチとアリアのえっちな絡みも盛りたかった…！
一旦はこれで完結ですが、また何かの機会に二人の物語を描けたらいいなと思っています。

あと今回ページ数や時間の都合で載せられませんでしたが、
せっかくなので本編で描けなかった設定やキャラの名前の由来、キャラデザなどの小話も何らかの形で公開したいですね。

また、前作と比べたら漫画としてのクオリティも上がったと思います。
今後とも作品を作っていき、技術を向上させていきたいと考えています。

それでは、ここまで読んでいただき本当にありがとうございました。

-奥付-

誌　名：響奏閃姫アリア
　　～壊れた世界に響く独奏曲～
発　行：天パ屋さん
発行者：緒嵜
発行日：2023/12/31
印　刷：日光企画様

連絡先　　：ozakix1416@gmail.com
X(旧Twitter)：@ozakix_1416
pixiv　　：ID=16789563

・無断での転載・複製・転売・web上へのアップロードを固く禁止致します。
・未成年者の閲覧を固く禁止致します。

Presented by
天パ屋さん